

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 21 年度 第 1 回 議事録」

日時	平成 21 年 4 月 16 日(木) 9:30 ~ 13:00		場所	地盤工学会会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員	森田 宏	×
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	×
委員(WG5)	横田 聖哉 (中島 伸一郎)		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG8)	石川 達也		オブザーバー	別木 孝	

:出席 :電子会議出席 :代理出席 ×:欠席
議事録担当:豊田浩史,川崎 了

配布資料:

資料番号なし:平成 21 年度第 1 回室内試験規格・基準委員会議題書

資料 21-1-1:室内試験規格・基準委員会平成 21 年度第 1 回幹事会議事録

資料 21-1-2:赤本改訂版の価格案

資料 21-1-3:赤本改訂版の印刷工程表

資料 21-1-4:平成 20 年度室内試験規格・基準委員会の予算収支決算書

資料 21-1-5:平成 21 年度室内試験規格・基準委員会の予算計画書

資料 21-1-6:WG9 平成 20 年度第 2 回会議議事録

資料 21-1-7:WG12 のメンバー構成

議 題:

1) 委員の交代について

異動のため,森田 宏氏(国土交通省大臣官房技術調査課)から別木 孝氏(同省)への委員の交代が了承された。この交代は,ISO 国内委員会,地盤調査規格・基準委員会と一緒に基準部会に上申する。

2) 日本工業標準調査会標準部会・土木技術専門委員会の報告と方針の検討

4 月 8 日に開催された土木技術専門委員会の報告がされた。問題点と対応策は以下の通り。

問題点:試験回数とその整理法に関する説明がない。

対応策:今回はJISの解説の中で,試験回数や整理法に関する説明を加えることで対応する。

問題点:用語の定義が少ない。報告事項にある用語はすべて定義して欲しい。

対応策:今回は変更しないが,今後,用語を増やすとともに用語集のJISの作成を検討する。

問題点:単なる密度ではなく,かさ密度とすべきところがたくさんある.

対応策:地盤工学の分野では,かさ密度という用語はほとんど使われていない.現状のままとする.

その他,有効数字や単位の統一(mmを使うなど)に関する指摘があった.土木技術専門委員会に対応策を記した文書を提出し,メール審議が行われる.なお,JIS規格のドラフト版は4月20日まで,JISの解説は5月末が締切である.解説のひな形を作成してほしいと依頼があった.

3)JIS規格とJGS基準の整合性について

学会から提出したJIS規格素案は,規格協会(JSA)により書式(漢字や注記への記載事項)が修正されている.JGS基準については,理事会の承認を得たバージョン(JIS規格素案と一致)から変更しないこととした.

4)赤本改訂版の価格について

赤本改訂版の価格は理事会では決定できず,総務部で議論することになったことが報告された.総務部より意見が求められたため,各WGで意見を聴取し(4月中),室内試験規格・基準委員会で取りまとめることとした.

5)赤本改訂版の原稿執筆状況および入稿計画について

発行を10月とすると,5月中旬までに入稿を完了する必要がある.WG1,2,3,5は,ほぼ仕上がっているが,JISが変更されたことによる引用等を確認しなければならない.WG4は,概説と一面せん断試験の液状化に関する内容を執筆中である.WG6は,第1,2章を早急に仕上げてもらうように委員長より依頼する.WG8は,原稿の最終確認中であり,まもなく入稿可能である.

6)赤本改訂版の付録について

委員会内で議論した結果,以下のように対応することになった.

- ・ 「旧データシートと改訂データシートとの対応表」については,必要なところ(例えば,圧密試験や透水試験など)だけを表にして掲載する.
- ・ 「薬液注入工法に関する暫定指針」については,WG5において内容を検討する.検討の結果,指針を掲載することになった場合には,4月末までに最新版の指針の原稿を提出する.
- ・ 上記以外の部分については,基本的に現行の赤本と同じ仕様とする.なお,詳細については地盤工学会事務局と相談しながら作業を進める.

7)赤本改訂版の原稿校正について

原稿の校正は,初稿,再校,参校の3回とする.また,校正原稿は,出版会社から印刷物として各担当者まで直接送付される.送付される原稿のページと送付先は,各WGで検討しておく.各担当者が校正した後の原稿は,各WGあるいは幹事会でとりまとめた後に印刷会社まで返送する.なお,参校については,後日,数名の最終原稿の校正担当者を決めることにし,その担当者に対しては原稿校正料を支払うことにする.

8) 赤本改訂版の出版までのスケジュール確認について

印刷会社が作成した赤本出版までのスケジュール表を確認した。直ちに原稿を入稿していき、5月中旬までにすべての原稿を入稿しないと10月発行に間に合わない。

9) WG9 ~ WG12 の活動状況について

平成20年度のWG9~WG11の活動状況および新規WG12の準備状況について確認を実施した。その主な内容は、以下に記載するとおりである。

- ・ WG9:平成20年度第2回WG会議の議事録に関する報告があった。平成21年度は、地盤工学会のメーリングリストなどを利用したBE試験に関するアンケート調査およびBE試験の一斉試験を予定している。また、BE試験方法の基準化に関する答申案は、平成21年秋を目途に提出してもらう。(対応:豊田幹事)
- ・ WG10:発刊時期(平成21年12月を目標)、原稿料(支給しない方針の確認)、解答冊子(配布方法の確認)などについて、問い合わせることになった。(対応:後藤委員長)
- ・ WG11:第1編の原稿未完成部分は第2章および第6章のみであり、執筆担当者に問い合わせることになった。4月末までに原稿の執筆および査読を完了させる。(対応:後藤委員長)
- ・ WG12:WGメンバー構成案について電子メール審議を実施した結果、承認されたことが報告された。このWGメンバー構成案を、平成21年4月17日開催の基準部会に上申する。

10) 平成20年度の委員会予算の収支決算について

昨年度の一般会計および刊行事業特別会計の収支決算について報告があった。両会計の全体収支は、それぞれ当初予算の範囲内において予算の執行が行われことが確認された。

11) 今年度の委員会・WGの予算配分および活動計画について

理事会で承認された本委員会への予算配分が紹介され、各WGへの配分案が示された。各WGへの配分額については別途メールで連絡する。

12) その他

- ・ データシートを修正する場合には、表記法委員会と協力しながら行う必要がある。第1編第6章および付録に掲載されているデータシート改変経緯についても、表記法委員会にお願いする必要がある。WG3は「土の定ひずみ速度載荷による圧密試験方法」の新しいデータシートを作成中である。以上の件に関して、速やかに表記法委員会に確認する。(対応:後藤委員長)
- ・ 赤本改訂版の発刊直後に開催される講習会については、最初に本部主催で地盤工学会において開催し、引き続き北海道支部を始めとする講習会を希望する各支部において支部主催で開催する。本部主催については開催期間を2日間とし、講習会の内容は初心者に理解できるものとする。幹事会で講習会のプログラム案を作成し、各WGに照会して講師を推薦していただく。(対応:川崎幹事)
- ・ 各WGは、必ず赤本改訂版の原稿を4月末までに完成させ、サーバへのアップロードを完

了させる。特に、原稿の執筆および査読が未だ終わっていない2つの編(第1編および第9編)については、作業を非常に急ぐ必要がある。5月中旬には、全部の原稿の入稿を完了させる。

- ・ 次回の平成21年度第2回委員会は、7月下旬～8月上旬に開催する方向で日程調整を行う。(対応:川崎幹事)

以上